

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 則松中学校】

1 実践テーマ	I・III
2 実施対象者 (学年・人数)	1年生 141名 2年生 140名 3年生 167名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( O ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	○ 車いすを使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障害を持った方たちと共生する社会について考える。 ○ リオパラリンピック日本代表二條実穂選手の講演や、競技用車いす、ボッチャ競技等の体験を通して、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	○ 車いすテニス日本代表二條選手の講演と体験学習 (1年生は講演・車いす体験、2, 3年生は講演・ボッチャ体験) ・ 車いす生活となった経緯、車いすテニスの日本代表としてリオパラリンピックに出場するまでの努力や心情の変化について ・ リオパラリンピック大会の様子、ダブルス4位なるまでの苦労、チームとして助け合うことの大切さ、障がいを乗り越え活躍していくための努力について ・ 車いすの体験学習(参加生徒全員が競技用車いすに乗車し、車いすの操作方法を学んだ。その後、代表生徒や教職員と車いすテニスのゲームを実演した) ・ ボッチャ競技の体験(ボッチャ10セットを準備し、参加生徒全員がボッチャ競技体験を行った) ・ 放課後の時間に本校女子バレーボール部へトレーニング方法等の指導



(写真1：車いすテニスゲーム実演の様子)



(写真2：ボッチャ競技体験の様子)



(写真3：女子バレーボール部への指導の様子)

6 主な成果

- 車いすの体験学習では、参加生徒全員が競技用車いすに乗車し、車いすの操作を行った。競技用車いすを使用したゲーム実演では、二條選手のプレーに参加生徒から大歓声上がり、大変盛り上がった。
- 車いすテニスの体験を通して、生徒は競技の難しさを実感するとともに、障がいをもちながらも巧みに車いすを操作する二條選手の凄さを実感することができた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 参加生徒全員がボッチャ競技を体験することで、老若男女が楽しめるスポーツのよさに気付き、自分自身も生涯にわたってスポーツを楽しもうとする心情を養うことができた。</li> <li>○ 二條選手からたくさんのことを教えていただいた感謝の気持ちを代表生徒からお礼の言葉を述べ、二條選手からメッセージを記入した色紙をいただいた。</li> <li>○ オリンピック・パラリンピック選手への尊敬の念をもち、その心情の強さを感じ、生き方について考え、生徒自身の目標へとつなげることができた。</li> <li>○ 放課後の時間を活用し、本校女子バレーボール部へトレーニング方法等のアドバイスをいただいた。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が体験できる場面や講師の動きを間近に見る場面を取り入れ、ハンディキャップのある人の大変さを感じるとともに、障がいがありながらもアスリートとして活躍する選手の凄さを実感できるよう、場の展開を工夫した。</li> <li>○ 講演では、二條選手自身の話だけでなく、東京大会の見どころ等について講演していただくことで、東京2020大会に向けた機運醸成を図った。</li> <li>○ 二條実穂氏の強い要望から、普段乗る機会のない競技用車いすを10台準備するとともに、ボッチャを福岡県障がい者スポーツ協会、北九州市障がい者スポーツセンターから、計10セット準備し、参加生徒全員に体験させることができた。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、実施が危ぶまれたが、二條選手側と綿密に打合せを行うとともに、校内での感染防止対策を徹底することで、本事業を実施することができた。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昨年度に引き続き、オリ・パラ推進校として取組を重ねる度に、生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まってきている。今後も、以下の重点目標を達成すべく、様々な取組を通して次年度に延期された東京2020大会への機運を醸成していく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ及びオリ・パラの意義や歴史の理解</li> <li>・ 海外からの客人をもてなすボランティア精神の育成</li> <li>・ インクルーシブな社会の構築</li> <li>・ 日本及び世界の文化・伝統の理解</li> <li>・ スポーツへの興味・関心の向上</li> <li>・ SDGsの視点に立った、国際理解・環境教育の実践</li> <li>・ 東京2020大会開催後も、引き続き取組を推進していくことで、価値あるレガシーを残していきたいと考えている。</li> </ul> </li> </ul>